

# 中央区文化・国際交流振興協会だより



「日本銀行」(1989年)小川幸治

●特集●

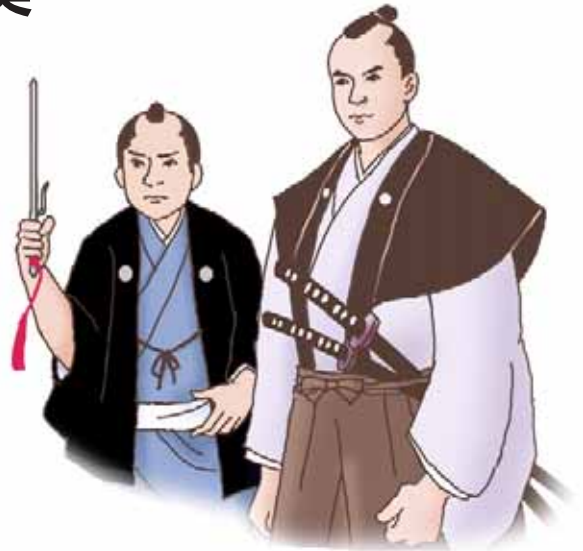
## 八丁堀と小伝馬町牢屋敷の虚実

①八丁堀と与力同心の虚実 高橋千劍破

- 国際交流のつどい 世界の遊び
- 平成18年度の事業報告と決算
- 中央区 ひと 粹・生き 村山圭吾
- 中央区映画の思い出 - 2 水野晴郎
- 区内文化施設紹介 明治座

# 八丁堀と小伝馬町牢屋敷の虚実

## 八丁堀と 与力同心の虚実



歴史・文芸評論家 日本ペンクラブ常務理事

たかはしちはや  
高橋千劔破

### 「八丁堀」の由来と犬の糞

八丁堀は現在、中央区の地名となり一丁目から四丁目までである。江戸時代には与力・同心の組屋敷があったところだ。だが、もともと八丁堀というのはこの辺り一帯の俗称で、正式な地名ではなかった。江戸時代の後期には、八丁堀北紺屋町、八丁堀水谷町、八丁堀金六町など町名にも冠されたが、明治2年(1869)に廃され、本八丁堀、八丁堀仲町などの町名が復活したのは昭和6年(1931)のことである。今は一丁目から四丁目となっている。

江戸時代前期の寛永年間(1624~44)京橋川から隅田川に通ずる掘割が開かれた。長さが八丁(約870メートル)あったので八丁堀と呼ばれた。この掘割は明治以後桜川と改称されたが、昭和35年から40年代にかけて埋め立てられてしまった。この八丁堀の近くに最初に与力・同心の組屋敷が置かれたのは、元和年間(1615~24)のことという。その後、元禄年間(1688~1704)になって、江戸町奉行配下の与力・同心の組屋敷が集中して八丁堀北側の現在地に建てられ、幕末まで続いた。

与力・同心は、「八丁堀御役人衆」また「八丁堀の旦那」と呼ばれた。

元禄時代、八丁堀に多いものは、「儒者、医者、犬の糞」といわれた。「生類哀れみの令」によって犬が異常に増え、江戸っ子たちが大いに迷惑していた時期である。八丁堀の旦那たちは、庶民が犬を粗略に扱わないか、監視する立場であり、犬を追い払ったりできない。八丁堀界隈は「お犬様」にとって、暮らしやすい場所であったのだろう。

儒者と医者が多かったのには、わけがある。与力は

300坪前後の屋敷地を拝領していた。同心は100坪程度である。与力は200石の禄を得ていたが、お目見以下の一代抱えの御家人であり、生活は苦しかった。町人には見栄を張らねばならず、何かと物入りでもあった。そこで、屋敷地の一部を儒者と医者に限って貸し出し、収入の足しにしていたのである。同心は30俵2人扶持であり、さらに薄給であった。彼らも町人に土地を貸したので、やがて八丁堀の一部は町屋ともなった。

### 与力・同心と女風呂の特権

八丁堀の与力・同心は「町方」また単に「八丁堀」とも呼ばれた。与力・同心の役職は他にもあり区別するためである。与力は寄騎から出た語といい、従って与力を数えるときには何人といわず何騎といった。

定員は、町奉行一人につき与力25騎、同心120人、南北の町奉行合わせて50騎240人であった。延享2年(1745)に定められた定数だが、幕末に同心18人ずつの増員があった。それにしても、これだけの人数でよくも江戸の治安が守れたものだ。

与力・同心の役職は警察の仕事と同じように思われがちだが、決してそうではない。町奉行の職掌は、司法・行政・警察の全てであり、その事務を与力とその下役である同心が担当していた。行政全般にわたる役所の仕事に加えて、裁判所、消防署、警察署の役割をこなしていたのである。

与力・同心の仕事で最も多くの人員が当てられていたのが吟味方である。常時与力10人、同心20人がこの役に当たっていた。民事の審理と勘解(和解)および刑事の審査と刑の確定・執行に関わる事務を担当した人たち

である。町火消人足改の役についていた与力は4人、同心8人、冬場は与力5人、同心10人に増員された。他にも多くの役があり、与力2人に同心4人、あるいは与力1人に同心2人が組みとなっていた。

このうち捕物すなわち犯罪捜査に関わったのは「三廻り」の同心で、特に与力はこの役につかなかった。三廻りというのは隠密廻りと定町廻り、臨時廻りの三役で、いずれも市中パトロール役、事件が起こると犯人の捜査や逮捕にも当たった。隠密廻りは同心2人、町奉行直属の秘密探偵で最ベテランが勤めた。臨時廻りは同心6人、事件の時など定町廻りを助ける役で、永年定町廻りを勤めた者がなった。

花形は、定町廻り同心6人、単に定廻りともいった。竜紋裏、三つ紋黒羽織の着流しに、朱房の十手を持ち、刃引きの長脇差を一本差しにした粋なスタイルで、江戸っ子に人気があった。いわゆる「八丁堀の旦那」で、十手術や捕縄にも長けた壮年が役に当たり、木刀を差した中間と、小者と称する岡っ引を2、3人連れて江戸の市中を廻った。

八丁堀の同心は、午前中に限り女湯に入れたという。そのため八丁堀界隈の銭湯の女風呂には刀掛けが置いてあった。朝風呂に入る女性は少なく、空いていたからという説と、朝風呂は水商売などの女性で結構賑わっており、噂話が聞けたから、という二説がある。

## 活躍した岡っ引と下っ引

捕物帳では銭形平次や伝七親分が活躍する。彼らは正規の役人ではなく、三廻り同心の私設の雇人である。「岡」は、岡目八目や岡場所の岡で、正規ではなく脇のこと。脇から引くくるので岡っ引といった。

もともとは「目明し」といい、悪党仲間や裏社会に通じた者を雇い、罪を免じてやる代わりに密告させた。だが八代将軍吉宗のとき「目明し禁止令」が出された。きちんとした捜査が行なわれず、目明しの情報を頼りにしたのでは法の権威にかかわるからである。だが、目明しから岡っ引に名称が変わっただけで、彼らは同心の私設雇人として活躍しつづけた。6人の定町廻り、三廻り全部合わせても14人の同心では、大江戸八百八町はどうあってもカバーしきれない。なお、江戸および関八州では岡っ引となったが、それ以外の地方では享保以後も目明しであった。

岡っ引は同心から房なしの十手と捕縄を預っていた。とはいえ「お手当の事」と書かれた捜査令状を持ったときだけ、十手・捕縄を使用できた。やたらに十手を振り回したり、容疑者を縛ったりはしないのである。同心が岡っ引を連れて歩くとき小者と称したのは、公用なのに町人を連れてくるのはおかしいので、奉行所に勤める小

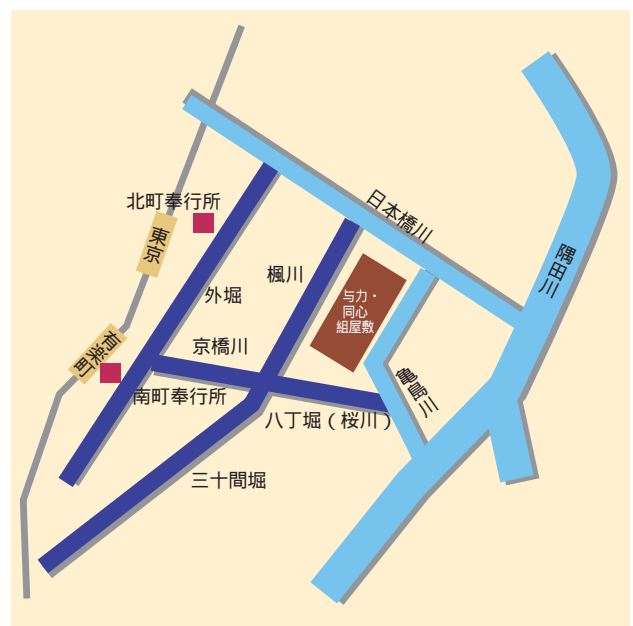
者を連れてくるということにしたからだ。

岡っ引は原則として無給であるが、彼らは同心のお墨付きである手形（身分証明書）と十手を預かることで、十分にメリットがあった。女房名義で銭湯や小料理屋、また口入れ屋などを営んでいる場合が多く、仲間からも一目置かれ、親分と称された。裏社会にも顔がきき、いろいろと身入りがあったらしい。

親分というからには子分がいる。岡っ引は下っ引と呼ばれる子分を何人も抱えていた。多くはその日暮らしの者たちで、悪仲間と通じている者も多く、さまざまな情報を探ってきては、親分に小遣いをもらっていた。怪し気な情報が少なくなかったが、ときには有力な情報もあり、けっこう犯人逮捕などに役立ったらしい。八丁堀の近くの下っ引溜りがあって、彼らはそれぞれの親分から依頼された情報収集を交換し合い、協同で江戸の町々を走り回った。自分の親分の手当が少ないと、よその親分に情報を売ったりもしたという。

ともあれ、同心による犯人の検挙率は高く、手配から三日間くらいで犯人の居所をつきとめたという。下っ引の情報網があったからである。

なお、八丁堀の与力・同心の担当区域は、あくまでも町方であり、寺社や武家の屋敷に踏み込んだりすることはできなかった。お目見以下の一代抱えの御家人という低い身分だったのは、いわゆる「不浄役人」だったからである。百姓や町人、浪人者などの犯罪者を取り扱うのは賤しい仕事で、上級武士のやるべき事ではないとされたからだ。そのため一代抱えとされたが、実際には世襲であり、与力・同心の嫡男は13、4歳ぐらいから見習として出勤し、親が引退すればそのあとを継いだ。転役も転勤もなければ出世もないが、代々八丁堀に住んで役に励んだので、彼らは江戸の世情や市中の隅々にまで精通していた。



# 国際交流のつどい 世界の遊び

2007年11月17日土曜日に月島区民センター（月島社会教育会館）で開催された「国際交流のつどい」の土曜日日本語教室コーナーにスタッフとして参加したフィリピンと中国出身の学習者からのレポートを紹介します。

フィリピンの伝統的な遊び

## ジャックストーン

フィリピン出身 Raquel Nazariga (ラケル ナザリガ)

私は、友人のローザと一緒にジャックストーンというフィリピンの伝統的な遊びを紹介しました。

この遊びに必要な用具は、プラスチック製のボール1個と石10個です。この遊びの基本ルールは、石を拾うとき、他の石に触れないようにして、拾い上げることです。

遊び方は次のとおりです。

ステップ1：石を机の上に軽くバラまきます。

ステップ2：ボールを上方に投げます。

ステップ3：その間に、石を1つ拾います。

ステップ4：ボールをつかみます。



1個づつ石を拾って、全ての石を拾い終えたら、次のレベルにすすみます。今度は、ボールを放り投げている間に、石を2個づつ拾います。一度に10個拾い上げるまで、繰り返します。

### イベントに参加した感想

私は、すべてのコーナーを体験しました。どのコーナーもとてもすばらしかったです。特に、初めて着物を着る機会がもてたことが良かったです。二人の女性が、私のサイズよりはるかに大きいサイズの着物を私にフィットするように着付けてくださり、感動しました。「国際交流のつどい」は、日本の伝統文化に直にふれることができるとともに、人々との交流ができるすばらしい機会です。来年は、他の友人にも参加を呼びかけたいです。



中国の伝統的な遊び

## 羽根蹴り

中国出身 張 沂 (チョウキ)

今回、国際交流のつどいでは紹介できませんでしたが、中国の伝統的な遊びを紹介します。羽根蹴りは中国の民間の伝統的な遊びの1つです。起源は漢代とされており、すでに2000年以上の歴史を持っています。比較的簡単で、室内でも室外でもできます。

この遊びに必要な用具は、羽根です。

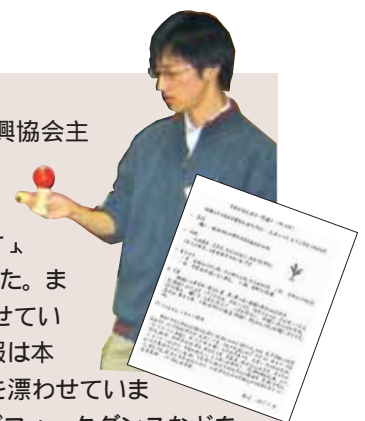
遊び方は次のとおりです。

羽根蹴りの競技には個人競技と団体競技があります。個人競技では参加者それぞれが羽根を蹴り上げる回数で勝負します。団体競技では、参加者を2つのチームに分けます。



### イベントに参加した感想

今回、中央区文化・国際交流振興協会主催の国際交流イベントに参加できてとても嬉しく思います。中でも印象的だったのは「お茶」と「着付け」そしてフォークダンスと盆踊りでした。また、日本の伝統的な民族衣装を着せていただきました。着物、特に女性の服は本当に美しく、東洋女性の優雅さを漂わせています。最後に、各国からの友人たちがフォークダンスなどを踊り、イベントは最高潮に達しました。皆が軽快な音楽と踊りを満喫しました。日本の友達や日本文化と、直に触れ合うチャンスを与えてくれたこのイベントを主催してくださった、中央区文化・国際交流振興会に感謝しています。



# 平成18年度の事業報告と決算

## 平成18年度事業報告

平成19年6月20日に開催された理事会において、平成18年度の事業報告並びに収支決算が審議され、承認されましたのでその概要を報告します。

### I 文化振興事業

#### (1) 機関誌の発行

「中央区文化・国際交流振興協会だより」を発行した。

発行部数 4,500部 A4版  
発行回数 年2回(7月、12月)

#### (2) ホームページの開設

平成18年8月にHPを開設し、事業紹介やイベント等の情報を提供している。

URL : <http://www.chuo-ci.jp/>

#### (3) 古典芸能鑑賞会

日時 平成18年6月17日(土)午後6時開演

会場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」

内容 講話・舞踊・長唄・落語、舞踊・常磐津

入場者 357名

#### (4) コンサートの開催

日時 平成18年10月13日(金)午後6時40分開演

会場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」

内容 ヴァイオリンとハーブのエレガンスを楽しむ

出演者 大谷康子(ヴァイオリン)、篠崎史子(ハーブ)

入場者 295名

#### (5) 文化講座の開催

日時 平成18年10月4日(水)～10月25日(水)延4回

会場 築地社会教育会館 2階講習室

内容 生活の中の版画色々 ～奈良時代から室町時代～(祈りの版画)

講師：町田市立国際版画美術館 学芸員 佐々木守俊

江戸の粋 ～錦絵の登場・印刷技術の粋が集まる中央区界隈・描かれた中央区～

講師：同美術館学芸員 河野実 絵画芸術として登場した版画 ～創作版画の登場・伝統木版画と浮世絵モダン～

講師：同美術館学芸員 河野実 国際的に活躍する日本の版画家達

～多様化する現代版画・中央区が生んだ版画家～

講師：同美術館学芸員 滝沢恭司

参加者 延133名

#### (6) ギメ東洋美術館所蔵浮世絵名品展関連「特別文化講演会」

NHKとの共催により開催した。

日時 平成19年2月1日(木)

会場 日本橋公会堂(第3・第4洋室)

演題 パリ東洋美術の殿堂ギメ美術館とその浮世絵の魅力

- 北斎の傑作「龍虎」新発見の

秘話 -

講師 奥田敦子(太田記念美術館学芸員)

参加者 74名

#### (7) 文化振興事業助成

区民等が主体となって行う文化振興事業の後援及び事業実施に要する経費の一部を助成した。

件数 後援10件(うち助成5件)

### II 国際交流振興事業

#### (1) 国際交流のつどい

日時 平成18年11月18日(土)正午～午後4時

会場 月島社会教育会館(4階ホール・全室)

内容 伝統文化体験(着付け、お茶、生け花、墨絵、折り紙、太鼓、風呂敷) 懇談(紅茶・韓国料理) 日本の伝統的遊び(羽根つき、紙ふうせん、剣玉)、みんなで楽しく踊ろう(盆踊り、浜町音頭)、サザランド市紹介等

参加者 266名(外国人52名、区民74名、ボランティア102名ほか)

#### (2) 姉妹都市親善写真展

中央区とサザランド市が相互の写真を交換し、19年2月に、区役所1階ロビー、日本橋特別出張所ロビー、月島特別出張所1階コミュニティフロアで順次開催した。

#### (3) 日本語指導・交流会

区内在住・在勤の外国人を対象として、ボランティアによる日本語の指導と学習者との親睦を図るための交流会を開催した。

##### 水曜日教室

日時 毎月第一・第二・第三水曜日

午後6時～7時45分

会場 女性センター「ブーケ21」

登録者数 外国人111名、ボランティア33名、

参加者数 外国人延684名、ボランティア延べ702名

##### 木曜日教室(10月から実施)

日時 毎月第一・第二・第三木曜日

午前10時～11時45分

会場 協会講習室

登録者数 外国人28名、ボランティア9名  
参加者数 外国人延111名、ボランティア延98名

##### 土曜日教室(5月から実施)

日時 毎月第二・第四土曜日 午前10時～12時

会場 協会講習室

登録者数 外国人57名、ボランティア10名

参加者数 外国人延208名、ボランティア延114名

#### (4) 日本語フォローアップ講座

日本語を教えるボランティア指導員のレベルアップを図るため、開催した。

日時 毎月1回第四水曜日(7月・8月を除く) 延10回

午後6時30分～8時30分

会場 協会講習室

受講者 延162名

#### (5) 国際交流サロンの開設

区内在住・在勤の外国人と日本人が気軽に交流が出来る、日本語の会話や日本の文化に触れることが出来る場を提供するため、ボランティアの協力を得て7月に新規に開設した。

日時 毎月1回(11月を除く) 午後2時～4時30分

会場 協会講習室

内容 七夕まつり、盆踊り、等

参加者数 外国人延39名、日本人延53名

#### (6) 外国客船歓迎式

東京港晴海埠頭に着岸する外国客船の入港時の歓迎行事に参加し、記念品を贈呈した。

入港数 5隻(初入港2隻、再入港3隻)

#### (7) 国際交流推進事業助成

区民等が主体となって行う国際交流振興事業の後援及び事業実施に要する経費の一部を助成した。

件数 2件(うち助成2件)

#### (8) オーストラリア・サザランド市紹介のタベ

姉妹都市提携15周年を記念し、区民及びサザランド市の学生・関係者を招き、相互の交流を深めた。

日時 平成18年10月3日(火) 午後6時～8時

会場 日本橋社会教育会館

内容 ビデオ放映、中学生海外体験学習参加者スピーチ、オーストラリアとサザランド市の写真や物産等の展示・紹介、懇談等

参加者 200名

個人情報の保護に関する規程に基づく平成18年度の請求等の実績はありませんでした。

## 平成18年度決算

### < 収入 >

科目	決算額(円)	説明
事業収入	755,000	古典芸能鑑賞会、コンサート参加費
区補助金	42,243,000	中央区からの補助金
雑入	8,532	預金利子
収入合計	43,006,532	

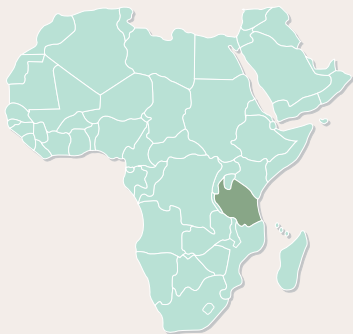
### < 支出 >

科目	決算額(円)	説明
事業費	14,501,340	
文化振興費	8,807,486	機関誌発行、古典芸能鑑賞会、コンサート、文化講座
国際交流振興費	5,693,854	国際交流のつどい、日本語指導・交流会、国際交流サロン、サザランド市紹介のタベ
管理費	20,181,366	
人件費	19,116,511	職員の給与
管理運営費	1,064,855	理事会、事務局
予備費	0	
合計	34,682,706	
区返還費	8,323,826	中央区補助金の精算返納
支出合計	43,006,532	

# 村山 圭吾 さん

タンザニアの美しく広大な大地や  
人々の素朴な笑顔に囲まれて、  
毎日楽しく技術協力をしています

●青年海外協力隊隊員



シリーズで、文化振興・国際交流の推進に活躍している方や団体をご紹介します。

IT会社勤務を経て、青年海外協力隊に応募。現在、アフリカ・タンザニア連合共和国でコンピュータの技術協力をされている村山圭吾さん。応募したきっかけや、現地での生活についてうかがってみました。



修理指導

IT関連の会社を経て、青年海外協力隊に応募したきっかけは？

**村山** 子どもの頃から「世界中のいろいろなものを見たい」という夢があったのですが、その気持ちがいっそう強くなったのは銀座中学校に在学していた時のことです。中央区の姉妹都市交流でオーストラリアのサザランド市へ派遣していただき、ホームステイなどを経験。異なる文化や様々な人との交流を通して、世界観がぐんと広がる体験をしました。社会人になってもその夢は抱き続けており、自分が身につけた「コンピュータ技術」を青年海外協力隊で活かせるということを知り、2005年の秋に応募をしました。

開発途上国で暮らすという不安はありながらも、未知の体験への期待が上回って早速参加することに。現在は中央アフリカの東部にある、タンザニア連合共和国で技術協力をされています。

現地で生活していてご苦労される点、楽しいことは？

**村山** 私のいる任地は最近までインターネットに接続できませんでした。コンピュータを修理する上で必要なプログラムなどをダウンロードするために、バスで6時間以上かけて町へ出かけたり、非常に限られた条件で修理するのは辛いものがありました。私の技術者としての力が試されているような気がします。でも、現地での生活は毎日とても楽しいです。タンザニアの方々是非常に友好的で、とても優しい心を持っています。スワヒリ語で「ポレポレ（ゆっくり）」「アサンテ（ありがとう）」などの言葉を毎日たくさん使うことでわかるように、思いやり溢れる地域社会がまだ残っています。

あと1年任期が残っていますが、スワヒリ語も上達してきたので、現地の人とより深いコミュニケーションをとって、お互い理解し合えるようになったらうれしいと思っています。



近所の子も達

## 中央区のココが好き！

私は藤沢周平や池波正太郎の時代小説が好きでよく読むのですが、江戸を舞台にした話では、現在の中央区の場所を主人公たちが活き活きと動き回っています。幼少の頃から慣れ親しんだ地域が出てくると、当時はどんな風だったんだろうかと想像するのが楽しみ。そんな江戸時代からの深い歴史と文化を内包している中央区が大好きです。

# 中央区 映画の思い出②



水野晴郎

中央区にある素適な場所と言えは歌舞伎座が庶民の憩いの場所。私は歌舞伎座が大好きで毎月通っている。この歌舞伎と映画の関係は深い。今日は歌舞伎と映画の関係を探ってみよう。

もちろん歌舞伎から映画になった例は実に数多い。「忠臣蔵」などはその典型だし先代松本幸四郎や片岡千恵蔵、市川右太衛門たちは何度も大石蔵之助を演じている。珍しいところでは先代猿之助が主役をやり今の猿之助の団子時代に出演し、お父さんの先代段四郎も共演していた。「大忠臣蔵」は歌舞伎の「仮名手本忠臣蔵」をそのまま映画化したものだったし、溝口健二監督の名作「元禄忠臣蔵」は真山青果の新歌舞伎を映画化したものだった。

それ以外にも「封印切」を中村錦之助、有馬稲子の共演で「浪花の恋の物語」として映画化され、「葛の葉」と「保名」は大川橋蔵

の主演で「恋や恋なすな恋」として映画化され、「心中天網島」は篠田正浩監督の手で岩下志麻、中村吉右衛門の主演で映画化され、それぞれ名作として記憶されている。

興味深いのは「元禄忠臣蔵」の一幕を映画化した「琴の爪」という堀川弘通監督の秀作で共演したかつての中村扇雀、現坂田藤十郎と扇千景・先参議員議長がこの映画で知りあい、結婚したという実に心暖かいエピソードもある。

「大江戸五人男」は阪本妻三郎、高田浩吉、市川右太衛門、山田五十鈴という大顔合せの大作だったが、原点は「幡随院長兵衛」という歌舞伎からの映画化である。この映画では「白井権八」や「お菊と播磨」のエピソードも加えられての大歌舞伎映像版であった。

この「番町皿屋敷」は長谷川一夫も市川雷蔵も演じているし、「斬られ与三郎」も歌舞伎が原作

で市川雷蔵が映画で颯爽と演じ上げた。

何度も映画化されたものと言えは何と言っても「忠臣蔵」に続くのが「四谷怪談」であろう。「東海道四谷怪談」という鶴屋南北の傑作を元にしたもので戦前にも数多く作られていたのだが、戦後も田中絹代、上原謙の主演で絹代がお岩、上原が伊右衛門という「愛染かつら」コンビが信じられない役柄コンビでこの残酷物語を実に美しい愛の物語に仕立てて前後篇の大作にしたのが名匠木下恵介監督であった。お袖は山根寿子であったと思う。

その後やはり愛の物語として幻想的に映画化したのが三隅研次監督の長谷川一夫の伊右衛門で作られた「四谷怪談」も印象深い。

この歌舞伎版が大好きで、南北の描く江戸中期の庶民の底から湧き上がる怒りと不安が現代とどこか交差して心をゆさぶるのである。

しかもこの舞台は ちょうちん 抜けや仏壇返しという凄い仕掛けがあり、それを江戸時代の実現した工夫におどろく。これを見事に映像化したのが「お岩の亡霊」加藤泰監督作品と「東海道四谷怪談」中川信夫監督作品であろう。歌舞伎と映画は今後も楽しく手をつないで我々を楽しませてくれるに違いあるまい。





\* 区内文化施設紹介 \*



# 明治座

日本橋の浜町センタービル内に構える、日本の演劇文化の殿堂「明治座」。商業演劇の拠点として明治から平成の現在まで、質の高いエンターテインメントを提供し続けています。歴史を感じさせる粋で華やかなつくり、上質なおもてなし…。日常のわずらわしさを忘れ、優雅に観劇を楽しむことができる空間です。

2008年に創業135年を迎える「明治座」。日本の代表的な劇場である明治座は、明治6年、久松町の浜町川（現在の浜町緑道）ほとり「喜昇座」として始められ、その後、大芝居を上演できる「久松座」、洋風建築の「千歳座」を経て、明治26年、「明治座」として落成しました。

大正12年の関東大震災、昭和20年の東京大空襲、昭和32年の不慮の災害で三たびの焼失という災難を乗り越え、復興開場。歌舞伎はもとより新派や新国劇など、商業演劇の一大拠点として、多くの人々に夢と希望を与え続けてきました。

時代劇スターや歌手が座長を務め、演じて唄って...というショー形式の公演は今でこそおなじみですが、ブームのきっかけを作ったのは明治座。昭和の時代、多くの女性ファンをとりこにした東映歌舞伎なども明治座が発信地でした。

現在もミュージカルをはじめ、新しい演劇の創造を目指し、あらゆる年代層に向けてバラエティ豊かな興業にチャレンジ。劇場としてのホスピタリティはもちろん、つねに“お客様に感動を与える”という精神を貫いています。



## 俳優養成機関「明治座アカデミー」を設立し、魅力的な役者も育成

明治座は、平成5年3月に劇場を新装。新たに建築された地上18階建ての「浜町センタービル」に新規開場しました。

劇場は1階がエントランスホール、3～5階が客席になっています

劇場正面には、江戸時代の芝居小屋の正面を飾った「櫓」を現代風にアレンジ。安土・桃山風の朱色の扉を入ると、そこには総大理石張りの広々とした空間が…。金時絵をあしらった手すり、下町情緒と



劇場正面



エントランスホールのシャンデリア

### Information

#### 明治座

住所：中央区日本橋浜町 2 - 31 - 1

TEL 明治座代表番号 3660-3939

(午前10時～午後5時)

<http://www.meijiza.co.jp>



広々とした客席

隅田川の流れをモチーフにした華麗なシャンデリアの輝きに圧倒されます。

また客席は、「見やすい劇場」を徹底追求したつくり。主階席の勾配を強くし、2階3階席のバルコニー席からの見下げ角度を可能な限り小さくして、どの席からも観やすく、ゆったりとした快適な環境につくられています。

華やかな内装やおもてなしの気持ちの他に、明治座は劇場として大切な活動も。新劇場再開場10周年を記念して、平成15年に俳優養成機関「明治座アカデミー」を設立。

魅力的な役者たちを自ら育て、質の高いエンターテインメントの発信を目指している。現在その卒業生達は明治座の舞台などで活躍中。

### 表紙

#### 日本銀行本店

世界の国々と交流し、国際化しようとした明治の時代。初めて国家的な建築物を日本人建築家辰野金吾が設計した。ベルギー国立銀行を参考にし、明治29年に完成。入口の円形アーチ門の上には、ブロンズ浮彫がある。日銀マークを両側からライオンが持ち、足元には江戸の象徴千両箱が積み重ねられている。

表紙は、中央区湊生まれの画家小川幸治氏の作品です。古い街並みの姿を記録しておごとスケッチを始め、現在も精力的に活動を続けておられます。特集「八丁堀と小伝馬町牢屋敷の虚実」は、10月に実施した文化講座のメインテーマです。文化講座には定員の3倍近い応募をいただき、好評理に終了いたしました。受講出来ない方も多くおられたので、講師の一人である高橋千劍破氏が執筆いただき、2回にわけて掲載いたします。

発行 / 中央区文化・国際交流振興協会 〒104-0041 東京都中央区新富1-13-24 新富分庁舎3F TEL 03-3297-0251 FAX 03-3297-0253 URL: <http://www.chuo-ci.jp/>



古紙配合率100%再生紙を使用しています